

授 業 科 目 名	教育心理学	教 員 名	劉 一 杰	免許・資格 との 関係	小学校教諭	○
					幼稚園教諭	○
					保育士	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒 業 要 件	こども音楽療育士	○
科 目 番 号	SEN103	配当年次	1 年後期		小幼コース	○
単 位 数	2 単位				幼保コース	○
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園及び小学校）					
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
一 般 目 標	教育心理学の授業では、幼児、児童及び生徒の学習過程や発達過程を理解し、より効果的な教育を展開するための素地を形成することを目標とする。具体的な一般目標・到達目標は以下の通りである。 (1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 (2) 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。					
到 達 目 標	(1) 従来の研究で明らかにされてきた教育心理学の理論や知見の理解を通して、洞察に満ちた幼児・児童観、教育観を形成し、それらを自分の言葉で説明できる。 (2) 幼児、児童及び生徒の心身の発達とは何かについて理解し、その過程及び教育との関係について理解する。 (3) 幼児、児童及び生徒の学習過程において重要になる認知、記憶、思考、行動等の心的特徴を理解する。 (4) 教育心理学の知見の応用としての具体的な教育実践の方法について考えることができる。					
授 業 の 概 要	教育現場における諸課題に適切に対応できるよう、教育心理学についての基本的な知識や知見を学習することを目的とする。また、理論的な知識の習得だけでなく、それらが今後の実践にどう繋がるのかなどについても検討し、具体的な事例をもとにグループで話し合い、多様な課題を抱える子どもに対しての適切な支援のあり方を考える。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて概説する。（目標(1)） 第2回：発達の原理とその規定因について解説する。特に遺伝要因と環境要因の相互作用の影響を中心に、教育が発達に果たす役割について概説する。（目標(2)） 第3回：発達と教育の関係について、レディネスや最近接発達領域（ZPD）の考え方を中心に説明する。（目標(2)） 第4回：行動主義心理学における学習の定義と基本的な考え方について理解する。特にS-R説を中心とした学習のメカニズムについて説明する。（目標(3)） 第5回：行動主義心理学に基づく学習のメカニズムに基づいた、実際の人間の学習場面への応用について概説する。（目標(3)） 第6回：記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について概説する。（目標(3)） 第7回：行動主義心理学以降に登場した洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から説明する。（目標(1)(3)） 第8回：動機づけとは何かについて、特に学習場面において重要な達成動機づけに関する基礎的理論から説明する。（目標(3)） 第9回：動機づけの形態（内発的動機づけと外発的動機づけ）に関する動機づけ研究の発展的経緯と展望について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけについても開設する。（目標					

	(3)) 第10回：学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から解説する。 また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても説明する。(目標(3)(4)) 第11回：教育場面での評価の形態(絶対評価、相対評価、個人内評価等)について説明し、その特徴を概説する。(目標(3)(4)) 第12回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助について考える。(目標(4)) 第13回：現代社会において、児童生徒を取り巻く様々な社会的問題について概説し、グループに分かれてディスカッションを行い、プレゼンテーションの準備をする。(目標(4)) 第14回：グループプレゼンテーション① 今までの授業内容を踏まえた上で、貧困・虐待・いじめ・非行・特別な配慮が必要な子どもへの対応など、児童生徒を取り巻く諸問題の実態についてさらに詳しく資料を調べ、教育者としてすべき関わりについて考え、グループによるプレゼンテーションを行う。 第15回：グループプレゼンテーション② 同上。 期末試験
学 生 に 対 す る 評 価	課題レポート(課題書籍を読み、授業内容を踏まえたうえで考えたことについて述べる)、グループプレゼンテーション、および期末試験の結果による総合評価を行う。評価の割合はレポート30%、グループプレゼンテーション20%、期末試験の成績50%とする。なお、レポート等課題へのフィードバックについては、授業にて口頭で行う。
時 間 外 の 学 習 に つ い て	(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) 事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。 事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。 授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。
テ キ ス ト	授業毎に資料、ワークシートを配付する。 レポート課題書籍：灰谷健次郎「兎の眼」、あるいは重松清「青い鳥」
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	参 考 書：「幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針」 文部科学省・厚生労働省 チャイルド本社 「小学校学習指導要領」 参考資料等：適時提示する。
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	授業への主体的な参加を期待します。
オフィスアワー	メール等で連絡をしてアポを取ること。